（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和７年度　学校自己評価システムシート（県立秩父特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒同士の学び合い、教職員同士の学び合いを推進する学校 児童生徒が心身共に健康で、持てる力を発揮できる学校 児童生徒が将来への自信や生きがいを感じ、自立（自律）できる生活力を育成する学校 児童生徒と教職員・地域が、元気で笑顔の絶えない、共に暮らしながら成長する学校

重点目標	１児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた自立活動の視点を踏まえた集団及び個別の授業を実践し、専門性を向上させる。 ２保護者・地域・学区域の学校及び関係機関等との連携を図り、特別支援教育の理解啓発と協働を通して「地域と共にある学校づくり（コミュニティ・スクール）」を推進する。 ３児童生徒の安全を確保し、児童生徒自らが生涯を通して、健康に生きる力を身につける教育活動を展開する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
生徒　　名
事務局（教職員）　　名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	特別支援教育の理念「自立と社会参加」を念頭に置き卒業後を見据えた教育を実践するためには、個々の特性の理解と本人の教育的ニーズや保護者の願いを把握したうえで指導支援を実践していかなければならない。今年度も引き続き、本校の指導体制「秩父スタイル」（各学部と自立活動部が連携した指導体制）を展開する。自立活動の「時間における指導」において個別指導の充実を図る。集団の指導においても個々の課題を達成することができるように、連携と協働を軸にした指導体制を充実させ、高等部3年生全員の進路決定につなげていく。 また、児童生徒の持てる力を最大限に発揮できるようにするためには、保護者との連携も欠かせない。今年度は保護者に対して積極的に情報を周知し、保護者支援を充実させるとともに、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者、関係職員及び関係機関等と連携を図り、管理職を含めたチームで対応していく必要がある。	各学部と自立活動部による連携と協働によるチーム支援	①昨年度の指導の引き継ぎを基に、児童生徒一人一人の実態を把握し、教育支援プラン及び自立活動の指導計画の作成を行い、根拠に基づいた指導を行う。(4、5月、通年) ②家庭訪問や面談を通して、児童生徒の特性や教育的ニーズを把握する。また、個別的な配慮がより必要な場合は、保護者支援を含めて管理職や関係諸機関と連携を踏まえて対応する。(4・5月) ③「ほっと相談」等を通して、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者が担任だけでなく誰にでも相談することができる環境を整える。(通年) ④ケース会議、支援会議を状況を踏まえて適宜実施し、関係職員間の情報共有及び協力体制を整える。(通年) ⑤報告、連絡、相談、確認を徹底し、情報共有を通じて、全職員で協力して課題解決に取り組む。(通年) ⑥高等部3年生全員の進路決定に向けて、進路学習、企業と連携した進路開拓等を進め、産業現場等における実習等を通じて、生徒一人一人の主体的な取組を促す。(通年)	①引き継ぎを行い、児童生徒一人一人の実態を把握し、教育支援プラン及び自立活動の指導計画の作成を行い、根拠に基づいた指導を行うことができたか。 ②家庭訪問や面談を通して、児童生徒の特性や教育的ニーズを把握することができたか。また、個別的な配慮がより必要な場合は、保護者支援を含めて管理職や関係諸機関と連携を踏まえて対応することができたか。 ③「ほっと相談」等を通して、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者が担任だけでなく誰にでも相談することができる環境を整えることができたか。 ④ケース会議、支援会議を状況を踏まえて適宜実施し、関係職員間の情報共有及び協力体制を整えることができたか。 ⑤報告、連絡、相談、確認を徹底し、情報共有を通じて、全職員で協力して課題解決に取り組むことができたか。 ⑥高等部3年生全員の進路決定に向けて、進路学習、企業と連携した進路開拓等を進め、産業現場等における実習等を通じて、生徒一人一人の主体的な取組を促すことができたか。			
	昨年度は、学校研究に代わり、研修の充実を図ってきた。特に、教員の要望に応じた研修内容を検討し、教員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を図るとともに、組織的に教育を実践していくための研修を実施することができた。 今年度も、外部講師招聘研修の実施等、引き続き、教員の要望に応じた研修を各学部で実施することで特別支援教育の専門性をさらに高め、昨年度以上に資質の向上を図っていく必要がある。	指導の継続・発展にかかる研修の充実と特別支援教育の専門性の更なる向上	①職員の共通理解を図るため、年度初めに、教育支援プラン等やアセスメント等の基礎研修を実施する。(4・5月) ②学部研修等において、外部講師を招聘して研修等、教員の要望等を踏まえた研修内容を実施する。(通年) ③自立活動部と連携して、自立活動の充実に向けて、新転任者対象研修会、事例検討会等を実施する。(通年) ④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図るため、他校の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりする。(12・1・2月)	①職員の共通理解を図るため、年度初めに、教育支援プラン等やアセスメント等の基礎研修を実施することができたか。 ②学部研修等において、外部講師を招聘して研修等、教員の要望等を踏まえた研修内容を実施することができたか。 ③自立活動部と連携して、自立活動の充実に向けて、新転任者対象研修会、事例検討会等を実施することができたか。 ④教育課程検討委員会と連携して、教育内容の充実を図るため、他校の実践報告会へ参加したり、先進校視察を行ったりすることができたか。			
2	昨年度は「地域とともにある学校づくり」を進めるためにコミュニティ・スクール元年として「秩父特別支援学校を知ってもらう」ことを目標に、情報発信や地域との協働活動をできるところから取り組んできた。 今年度も学校運営協議会を核として、教員の参画意識を高め、本校を「見てもらう」仕掛けづくりや積極的に「見せに行く」ことで発信力を高めていくとともに、地域資源や教育力を生かした教育活動や地域貢献活動を継続して実施する。また、2年目の取組として学校紹介ビデオの活用やHPでのコミュニティ・スクールの取組紹介等、校内外への情報発信力を高める必要がある。	コミュニティ・スクールの推進にかかる取組の整理と校内外への情報発信	①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介する。(通年) ②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともにある学校づくりに必要な連携を模索し、地域と企業との連携による協働活動を検討し、実施する。(6月から適宜) ③学区域連絡協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図る。(5月～10月) ④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介する。(通年) ⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティスクールの各取組を実施する。(通年)	①コミュニティ・スクールの取組を進めるため、保護者や地域に向けて、HPや学校紹介ビデオ等で本校の取組を紹介することができか。 ②学校運営協議会を円滑に運営し、地域とともにある学校づくりに必要な連携を模索し、地域と企業との連携による協働活動を検討し、実施することができたか。 ③学区域連絡協議会や学校公開、中高コーディネーター情報交換会を実施し、情報共有を図ることができたか。 ④学校視察を受け入れ、積極的に取組を紹介することができたか。 ⑤「取組マニュアル」に基づき、コミュニティスクールの各取組を実施することができたか。			
	地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たすため、幼・保・小・中・高等学校等への巡回指導や教育相談を行っている。学びの連続性を意識し、児童生徒のその時々のニーズに合った多様な学びの場を準備すること、適切な学びの場（就学）の選択には、センター的機能の充実が欠かせない。 今年度は年々増えている就学前施設の巡回にも重点を置きながら学区域学校の特別支援教育への理解啓発や指導支援にかかる助言を充実させ地域の学校との連携・協働を実践する。	秩父地域における特別支援教育の推進への貢献	①支援要請に基づき、特別支援教育コーディネーターを中心に就学前施設や学区域小中学校の巡回相談を実施し、支援について検討する。(通年) ②学区域学校の要請に基づき、事例研修や必要な支援方法について研修を行う。(随時) ③自立活動部長兼特別支援教育コーディネーターを中心に学区域の高校通級を巡回し、相談に対応したり、アドバイスを行う。(月1回以上、通年) ④学区域の就学支援委員会に参加し、児童生徒の適切な学びの場について検討する。(通年)	①支援要請に基づき、特別支援教育コーディネーターを中心に就学前施設や学区域小中学校の巡回相談を実施し、支援について検討することができたか。 ②学区域学校の要請に基づき、事例研修や必要な支援方法について研修を行うことができたか。 ③自立活動部長兼特別支援教育コーディネーターを中心に学区域の高校通級を巡回し、相談に対応したり、アドバイスを行うことができたか。 ④学区域の就学支援委員会に参加し、児童生徒の適切な学びの場について検討することができたか。			
3	これまで、安全・安心な学校づくりに向けて、各部署と連携して緊急時の対応訓練を実施してきている。各教室の環境整備を進めるとともに、危機管理を常に意識した教育活動の展開と対応訓練の内容の充実させていく。また、日頃のヒヤリハットの事例の分析を進め、事故防止につなげていく必要がある。 今年度は、緊急時対応訓練などをはじめとして、校内外での児童生徒の安全を確保するための訓練を通して、各マニュアルに基づいた行動対応と事故対応能力を高めていく。	危機管理を常に意識した教育活動の展開と対応訓練の充実	①健康教育部と連携して、熱中症対策ガイドラインに基づいた対応を統一して取り組み、熱中症事故の発生を防ぎ、適切かつ迅速な対応を行う。(5月～10月) ②施設の安全点検を定期的に進め、問題箇所があれば迅速にチームで対応する。(通年) ③緊急時対応訓練（捜索・救急救命・引き渡し・不審者対策・避難訓練）を実施し、実際を想定した質の高い訓練を全職員で行う。(通年) ④医療的ケアの実施要領、マニュアルの点検を進める。年度末にはヒヤリハットの事例を分析する。(通年) ⑤ヒヤリハット研修会を実施し、医療的ケアを中心に、ヒヤリハットの事例について検討する。(9月)	①健康教育部と連携して、熱中症対策ガイドラインに基づいた対応を統一して取り組み、熱中症事故の発生を防ぎ、適切かつ迅速な対応を行うことができたか。 ②施設の安全点検を定期的に進め、問題箇所があれば迅速にチームで対応することができたか。 ③緊急時対応訓練（捜索・救急救命・引き渡し・不審者対策・避難訓練）を実施し、実際を想定した質の高い訓練を全職員で行うことができたか。 ④医療的ケアの実施要領、マニュアルの点検を進めることができたか。年度末にはヒヤリハットの事例を分析することができたか。 ⑤ヒヤリハット研修会を実施し、医療的ケアを中心に、ヒヤリハットの事例について検討することができたか。			

	これまで、健康に生きる力を身につけることをねらいとして学校保健計画に基づいた保健教育を実施してきた。昨年度は特に、歯科医師会と協働した歯みがき指導の実践が特別支援学校優秀賞を受賞することとなった。今年度も継続して、歯の健康等をはじめとして保健教育を進めていく。 また、相談医や看護教員、保護者と連携し、安全に児童生徒の医療的ケアを実施していく必要がある。	保健教育の充実及び医療的ケアの安全な実施	①健康教育部と連携して歯科医師会と連携した「歯みがき指導」や保健教育を実施し、歯の健康の維持を進める。(6月、11月) ②各学部や保健室と連携して、学校保健計画に基づいて保健教育を実施する。(通年) ③児童生徒へ適切な健康管理を進め、相談医、看護教員、保護者等と連携し、安全な医療的ケアを実施する。(通年) ④実施要領に基づき、校外での宿泊行事に看護教員が引率し、安全に医療的ケアを実施する。(11月)	①健康教育部と連携して歯科医師会と連携した「歯みがき指導」や保健教育を実施し、歯の健康の維持を進めることができたか。 ②各学部や保健室と連携して、学校保健計画に基づいて保健教育を実施することができたか。 ③児童生徒へ適切な健康管理を進め、相談医、看護教員、保護者等と連携し、安全な医療的ケアを実施することができたか。 ④実施要領に基づき、校外での宿泊行事に看護教員が引率し、安全に医療的ケアを実施することができたか。				